

# 薬剤師ができる服薬支援

## 相談1 「薬、飲むの忘れるんだけど」

### 『お薬カレンダーを 使ってはいかががでしょうか』



- お薬カレンダーへ飲む時間毎にお薬をセットし、順番に飲むことで、飲み間違いや飲み忘れを防ぐことができます。
- お薬カレンダーを壁にかけておくと、いつの時点の薬を飲み忘れたのか、家族や介護者が容易に気づくことができます。
- お薬カレンダーには、壁掛けタイプや、お薬整理ボックスのような置き型タイプもあるので、御利用になる方の生活習慣に合わせて提案できます。全ての薬局で対応できるわけではありませんが、まずは普段利用している薬局に御相談ください。

## 相談2 「飲み忘れた薬いっぱいあるんだけど」



### 『残薬調整ができますので、かかりつけ薬局に相談 してみたいかががでしょうか』

- 飲み忘れや飲み間違いなどで余った薬は、処方医の同意を得られると、その分を差し引いた日数でお渡しすることができます。
- また、飲み忘れや飲み間違いをする原因の相談にのり、処方医に飲みやすい方法を提案することもできるので、気軽にお問い合わせください。

### 相談3 「飲む薬多くって…

#### どの薬を飲んだのか、わからなくなる」

#### 『一包化調剤を相談しては いかがでしょうか』



- 薬剤師から処方医に指示を申し出て、飲む時間ごと（例：朝食後、昼食後、夕食後）に、薬をまとめてパックすることができます。
- 一包化調剤をすることで、飲み間違いや飲み忘れを防ぐことができます。
- 身体の状態によって調節する薬、湿気や光に弱い薬は、一包化調剤ができない場合があります。
- 一包化調剤のパックには、氏名、薬を飲む時間、日付などを印字することができます。しかし、一包化の機械の種類によっては印字できる内容が異なるので、まずは普段利用している薬局に御相談ください。

### 相談4 「この薬、きちんと効果が出ているの？」

#### 『使用中の薬が「きちんと効果を発揮しているのか」 「副作用は出ていないか」など、かかりつけ薬局 に相談してみてもいかがでしょうか』

- 体調を口頭で確認したり、医療機関で行った血液検査等の結果を、薬剤師の目でチェックし、薬剤の効果の確認や副作用の早期発見に活かします。気になることは何でも御相談ください。

## 相談5 「この薬飲みにくいんだけど」

**『飲みやすい方法を、提案できますので、かかりつけ薬局に相談してみてもいいでしょうか』**

- 薬を飲めない理由又は飲まない理由を探り、処方医に飲みやすい薬の形状や方法を提案し、医師の了解の下、内容を変更することができます（例：口の中で溶ける錠剤に変更する、錠剤を粉にする、など）。
- 薬の中には、ゆっくり効果が現れるように、錠剤やカプセルに加工が施されているものがあります。そういった薬に対して、自己判断で薬を砕いて粉状にしたり、カプセルから中身を取り出して調製をおこなってしまうと、効果が急激に現れることがあり、大変危険ですので、薬の使用で不明な点がある場合は、必ず薬剤師に事前に御相談ください。

## 相談6 「いろんな医者から薬もらっているけど大丈夫？」

**『お薬の重複や相互作用のチェックができますので、かかりつけ薬局に相談してみてもいいでしょうか』**

- 複数の医師から処方を受けると、時として、成分が似ていたり、飲み合わせに問題のある成分が重なることがあります。薬剤師は、薬の記録や御本人、御家族などからの情報に基づき、予測されるリスクを回避するために、医師に問い合わせを行います。
- お薬手帳をお持ちいただくと、薬の飲み合わせなどのチェックがスムーズに行えます。お薬手帳は、医療機関や薬局ごとにわけず、飲んでいる薬の記録をできる限り一冊にまとめるようにしましょう。